

各科目概要

★「大学」欄は科目の提供大学・機関を示し、略称「工、府、医、機」は、「工」：京都工芸繊維大学、「府」：京都府立大学、「医」：京都府立医科大学、「機」：京都三大学教養教育研究・推進機構を示します。

★授業目的区分（○は該当するもの、◎は特に強調するもの）

A：人文・社会・自然の諸分野の学術体系を俯瞰しながらこれらの基礎を幅広く学習し、学術への高い関心を育てる。

B：世界の人々の多様な生き方を感じ、人としての豊かな感性や倫理観を拡張する。

C：日々社会に生起する種々の問題において、真理や正義を探究する議論に習熟する。

【京都学の特徴】

「京都で学びたい」、「京都を学びたい」と思い、伝統のある三大学への進学を希望した学生も多いことでしょう。京都三大学教養教育研究・推進機構では、京都の地域的、歴史的、文化的特色を生かした、「京都学」を開講します。三大学にまたがる学問分野の広さと、各大学の専門性の強みを生かした多様な京都学が提供されます。

【リベラルアーツ・ゼミナールの特色】

リベラルアーツ・ゼミナールは、教育目標に掲げられた「C：日々社会に生起する種々の問題において、真理や正義を探究する議論に習熟すること」に重点を置きます。リベラルアーツ・ゼミナールでは、多様な価値観を持ち志向などが異なる仲間と交流し、様々な問題に関心を持ち、議論する力を高めることを狙いとします。授業は、1クラス30名を上限に、少人数で実施します。

■人間と文化

《人間と歴史》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
哲 学	工	伊藤 徹	後	哲学と呼ばれた知の営みがどのようなものであったのか、西洋哲学の歴史を通史的に見ていくことによって、考える。 具体的に登場する固有名詞を挙げれば、イオニア自然哲学、ディオニュソス教とピュタゴラス教団、パルメニデス、ソクラテス、プラトン、アリストテレス、アウグスティヌス、トマス・アキナス、オッカムのウィリアム、デカルト、カント、ニーチェ、新カント派、ディルタイ、ヴィトゲンシュタイン、オースティンなど。	哲学は、そもそも「知を愛し求める」という人間の基本的な姿勢を意味しています。「愛し求めること」は、答えという終結をもちません。哲学の歴史を振り返ることによって、答えのない問いと、それを問い続けることの重要性を学び、現代に生きる私たち自身の在り方を振り返る機縁としてほしいと思います。	○	○	
比較宗教学	工	樽田 勇樹	前	宗教と聞くと、自分とは別世界のことと思われるかもしれませんが、この名で呼ばれるさまざまな伝統や実践が根ざしている現実そのものは、私たち自身も、私たち自身の仕方で現に（「世俗的」に）生きているものです。比較宗教学とは、世界の多様な生のあり方において現実がどのように生かされているかを問う中で、翻って、おのが生と社会のあり方をも同時に問題にする学問にほかなりません。この授業では、そのような比較宗教学の最近の動向を参照しながら、宗教と呼ばれる事柄への通路を探りつつ、とくに耳なじみのある諸宗教の成り立ちや広がり学ぶことを通じて、私たちも生きるこの現実の多様性をよりよく見るための「目」を養うことをめざします。	「宗教」は現代でも世界の多くの人々の生活をかたちづくる力をもちつづけています。よく見れば、私たち自身の何気ない習慣の中にさえ、「宗教」は浸透しているとも言えます。このことは私たちに、どのような問いを投げかけているのでしょうか。この授業が、その問いの数々をみなさん自身が考えるきっかけになればと思います。	○	○	
宗教と文化	医	田中 純子	後	14世紀の動乱の南北朝時代に、宗教の支配及び加護から距離を置こうとする芸能者は、京都に進出し足利将軍との関係を深めます。たとえば猿楽・田楽師や高名な連歌師などは足利義満と深い関わりを持ちます。授業では、新しく台頭してきた芸能の動きとそれを担う人々に注目し、その後室町幕府内に設置される「同朋衆」の成立過程を考察します。さらに、南北朝期及び室町時代の社会変化を検討しながら、室町時代及びその文化について考えます。	中世後期に花開いた室町時代の文化は、その後、更に洗練されて現代へと継承され、日本独自の文化とよばれるようになります。現代社会に息づいている日本の文化・歴史を再認識し、中世の人々の置かれていた時代を感じてほしいと思います。一方、知識は大事ですが、論理的に物事を組み立てる力も重要です。中世の残された史料を一つ一つ積み上げたうえに、論理的思考をめぐらす作業の面白さにも触れてほしいです。	○	○	

各科目概要

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
日本史	工	浅井 雅	後	高校までに学習してきた日本史は、主に「為政者の歴史」である。もちろん、「為政者の歴史」も事実であるが、それだけが真実ではない。 本講では、歴史的事項を政治・経済・文化・思想・人物など様々な面から捉え、その実態にアプローチし、当該時代の特質を理解するとともに、新たな見方を提供したい。 また、近年、日本社会では少子高齢化、グローバル化、高度情報化や「想定外」の自然災害が起きているが、受講生には、先人たちの経験の追体験を元に、未知なる社会への想像力を育むものとして歴史学を学んでもらい、現代社会と比較・相対化し、「想定外」を「想定内」として対処できる能力を身につけて欲しい。	高校で日本史を勉強してこなかった学生の受講も歓迎する。 歴史学は「暗記」の学問ではなく、発見の連続である。 歴史学を学ぶことによって、視野を広げ、多様な価値観を理解し、自分の力で物事を考え、根拠をもって議論する力、課題を発見する力、問題を解決する力を養ってもらいたい。	○		
東西文化交流史	工	宮本 亮一	後	古来、人々は様々な目的を持ち、ある土地から別の土地へと移動し、それらの移動に伴って、人々が直に運んだ物品のみならず、人々が抱いていた思想や価値観も伝播していった。そして、それらの移動した物質・精神両面の文化が既存の文化と接触した際、両者が交流・融合へと進む場合もあれば、対立が生じることもあった。本講義では、前近代のユーラシア大陸における人々の移動の歴史と、そこで発生した様々な文化現象について概観する。なかでも、文明の十字路と呼ばれることもあるユーラシア中央部を中心にいくつかのテーマを取り上げる。	広く歴史や文化に関心のある学生の受講を歓迎します。過去に様々な次元で発生した文化交流の様相を知ることが、少しでも現在の国際社会を生きる皆さんにとってのヒントになれば幸いです。	◎	○	
アジアの歴史と文化	府	諫早 直人	前	「アジアの馬文化」 近代以前において家畜ウマやそれを馬車・騎馬などに用いる馬文化の出現は、それらをもたなかった地域に極めて大きな社会変化をもたらしました。それらは各地で独自に出現したわけでは決してありません。巨視的には西から東へ一定の時間差をもちつつ伝播・拡散したことが明らかとなっています。本講義では主として考古学的成果に拠りながら、中国やモンゴル、朝鮮、日本などアジア各地の馬文化を概観し、ユーラシア草原地帯とその周辺で出現した馬文化が東方へどのように展開したのかを明らかにしたいと思います。本講義を通じて、日本を含むアジアの諸地域を有機的に関連づけて理解するための手順と方法を学ぶことを目標とします。	アジアの歴史と文化の多様性と共通性を理解することは、日本を取り巻く現代世界を考える上できわめて重要です。本講義では考古資料（物質資料）から古代のアジア各地の馬文化を概観し、それらの多様性や共通性について理解を深めた上で、そういった多様性や共通性が生じた歴史的背景について考えてみたいと思います。考古学は文字ではなくモノから歴史を組み立てる学問です。高校では本格的に習う機会のない考古学の醍醐味もあわせてお伝えできればと思います。	○	○	
ヨーロッパの歴史と文化	府	阿部 拓児 渡邊 伸 川分 圭子	後	- 古代から近代までの欧米世界の歴史を講義する。ヨーロッパだけでなく中近東やアメリカ世界も対象とし、政治・経済・宗教・文化・社会の諸側面を取り上げる。 - 現代社会の歴史的・文化的基礎を理解することを目指し、現代の諸問題を多角的に考える力の修得をめざす。 - 高校で世界史Bを受講しなかった学生にも学習しやすい内容・レベルをめざすが、現在の日本人による研究がどの程度進められているかなどについても論及する。	ヨーロッパの歴史と文化は、現代世界を理解する上で不可欠の知識です。また、数十年、百年、数百年といった時間がたつと社会やものの考え方はどのように変わるのかという長い時間の感覚を持つことも、生きていく上でとても大切です。今の日本の価値観を絶対のものと思わず、昔や他の地域の価値観を理解し将来をも見越す力を持つためにも、歴史を学びましょう。	◎	○	

《文化・芸術》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
ラテン語	医	松本 加奈子	後	ラテン語の初歩を学びます。古典語ではありませんが、現在でも a.m.(午前)や p.s.(追伸)といった略語、自動車などの機械類の製品名で目している語も少なくないでしょうし、何よりも、ヨーロッパ諸言語のルーツを知ることで、英語を初めとする西欧諸言語の習得に役立つだけでなく、アルファベットの羅列に見えていた既習の英単語までもが深みと広がりをもって見えてくる興味深い言語です。 ほぼ全員が初めて学ぶ言語ですので、基礎から学んでいく予定ですが、文法や語彙の単なる丸暗記ではなく、長い時を経て人々が培ってきた文化の一つとして言語の成り立ちを鑑賞することで、言葉そのものに対する興味と知識を増すきっかけとなればと思います。	医学、薬学、化学元素、植物名、美術、宗教、文学 etc. (ちなみに etc. もラテン語です) と、理系文系を問わず様々な学術用語の基礎であるラテン語を、様々な専攻分野の皆さんが集まって学習できる機会を楽しみにしています。	○	○	
西洋文化論	工	山下 太郎	後	古今東西という言葉がある。我々は東洋の今を生きている。そんな我々にとって一番なじみの少ないのが西洋の古典文化ではないだろうか。当時の人間が残した言葉は、今も欧米人の心の琴線に触れる価値を持つ。では、我々はどうか感じ、どう思うだろう。異文化はおのが文化を照らし出す鏡である。 西洋古典文化を代表する名言を手がかりにして、今を生きる我々にとって価値ある指針とは何かを探りたい。	予備知識は前提としない。強いて言えばギリシア神話に関心があれば願う。心の目を大きく開けて、ピンとくる「何か」との出会いを楽しみにして欲しい。	○		○
日本近現代文学	工	高木 彬	後	本講義のテーマは「文学と空間」である。谷崎潤一郎の隠れ家、稲垣足穂の機械都市、安部公房の箱、村上春樹のヴォイド…。文学作品にはさまざまな空間が描かれてきた。それらはどのような特質を有しているのだろうか。また、そうした文学のなかの空間は、現実の空間とどのように関係しているのだろうか。いくつかの理論や、文学以外の表象ジャンルなども参照しながら探求したい。	文学を、空間という観点から読み解く。それは、これまでとは一味違ったかたちで文学を考えるきっかけになるかもしれません。またそれは、文学を手がかりにして空間を考えることにもつながります。よく知っている(はずの)日常の空間を、新しい目で見直すことになるでしょう。「日本近現代文学」という講義名ではありませんが、文学のトリビアルな知識の詰め込みに終始するのではなく、文学「から」考えることの愉しみをみなさんと共有できればと思っています。	○	○	
西洋文学論	工	山下 大吾	前	ホメロスの『イーリアス』『オデュッセイア』という二大叙事詩に端を発するヨーロッパ文学。それは今まで、その最高の模範に戦いを挑むかの様に、各時代各地域の様相を彩り、映し出しながらも、同時に普遍的価値をも併せ持つ古典的な作品を数多く生み出しており、21世紀の現代日本に生きる我々をも魅了してやまない。 本講義では、ギリシア・ラテンの西洋古典に由来する汎ヨーロッパ的な統一性、並びに聖書に基づくテーマに留意しつつ、その主要作品の内容、およびそれらに備わる特徴や創造的側面を概観する。合わせて漱石や鷗外、二葉亭など、我が国の文豪の残した作品や批評、翻訳などに見られるヨーロッパ文学に関する言葉を手掛かりとした紹介を試みたい。	西洋各国の文学作品を根拠から支えている philology「ことばに対する愛」は、洋の東西を越え、人間の有する本源的力量と言ってよいでしょう。その力を皆さんと共有し、再確認する場になればと考えています。意欲的な学生の参加を期待しています。	◎	○	
文芸創作論	医	藤田 佳信	後	講義に参加し文芸作業(読む&書く)をしながら、1)問題意識・方法意識を高め、2)創作態度と技法を身につけ、3)自分自身の思いを主体的に表現し、4)他者に向かって発信します。 4)の目的は、自分が何を表現したのか確認するためです。ひとに見てもらい評価してもらって初めて、自分が何を表現したのか確認できます。 最終目標として、オリジナルな作品3編(聞き書きエッセイ・紀行文・読書感想文)を創作し提出します。	近代日本の文芸について学びながら、読む&書くの文芸作業をします。色々な文章を読み、「書く」のに何が大切なのか考え、受講生自身の思い(考え・意見)を、他者に向かって発信する創作態度と技法を身につけます。自己の思いを積極的に表現しましょう！		○	

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
美と芸術	工	村上 真樹	前	主にルネサンス以降の西洋絵画を取り上げながら、技法・主題・思想の面での芸術の変遷の歴史をたどります。そのような変化を見ていくことで、それぞれの芸術家がその時代においていかに革新的であったかを学ぶことができます。そして芸術を語る際についてまわるのが「美」という言葉です。たしかに「美」と「芸術」とは深い関係にありますが、とりわけ 20 世紀以降の芸術においては、両者は必ずしも一致するものではありません。本講義では、美学・美術史・芸術学の知見を踏まえながら芸術について思考することで、「美」という価値観についても改めて考え直す機会としたいと思っています。	芸術を知的に考察することは、ふだん私たちがどのような価値観のもとに感じたり考えたりしているかを知ることにもつながります。そのことはよりいっそう深い作品鑑賞へとつながるでしょう。そして鋭敏な感性を持ち時間もある今のうちに、できるだけ多くの芸術体験を持ってほしいと思います。	○	◎	
日本近代精神史	工	伊藤 徹	前	人間は、世界と自己に関するイメージを組み立て、それに即して生きていく。人間の支えとなるこのイメージは、歴史とともに変動し、ときとして壊滅的な崩壊さえ経験する。明治維新以降近代化の歴史を歩んだ日本人の精神生活のなかに刻まれたそうした変動と崩壊の軌跡を、芸術家や知識人が残した作品やテキストから読み解く。具体的に扱う対象は、寺山修司、小津安二郎、是枝裕和、柳宗悦、夏目漱石である。	近代化は、人間のあり方を大きく変えたものであり、その変化は現代に生きる私たちの思考や感情にまで繋がっている。夏目漱石は、「片付かない」という言葉でこうした運動を性格つけたが、「終わりのない」近代を考えることは、私たち自身の生を顧みることでもある。本講義では、美術作品や文学などを通して、人間存在の基盤の反省に向かう生きた思想の息遣いを感じ取ってもらいたい。	○	○	
フランス語圏の文化とジャポニスム (2 回生以上)	工	吉川 順子	前 (午前)	日本とヨーロッパの交流は、宣教師が渡来した 16 世紀に始まり、鎖国を経て、本格的には 19 世紀半ばに日本が開国したことで急速に発展した。なかでも文化面では、フランスを始めとする欧米諸国で、日本の美術工芸品などに影響を受けた「ジャポニスム」という芸術運動が巻き起こり、美術・音楽・文学・服飾といった様々な分野に広がった。 本講義では、このジャポニスムの多様な事例を、具体的に作品を鑑賞・分析しながら学ぶ。また、その背景にあったフランス語圏の文化芸術に関する知識も身につけ、同時に、比較の視点から日本文化の特徴や価値も振り返る。 ※ 2 回生以上を対象	ジャポニスムを学ぶ中で、現代の私たちにも通じる、自国の伝統と異文化摂取の間に生まれる新たな文化や、文化の循環、異文化交流に纏わる諸問題についても考察を深めましょう。また、個々の関心に基づき、日本の様々な文化が世界でどのように知られてきたか、今どのように理解されているかも調べ、共有したいと思います。	○	○	
映画で学ぶ英語と文化 (3 回生以上)	府	山口 美知代	後 (午前)	スーパーヒーロー、マザーグース、ギリシャ神話を軸にした『映画で学ぶ英語の世界』(くろしお出版)を教科書として、英米文化の背景知識を学び英語の語彙・リスニング力を向上させます。毎回映像を見ながら講義形式で進めていきます。 ※ 3 回生以上を対象	教科書に紹介されている映画やそれ以外の映画から実例をとりだし、英語の音声に触れながら英語と文化を学ぶ授業です。映画の英語、口語英語、英語の音声、に興味がある受講生に特に有用な内容ですので、ぜひ受講してください。		◎	
映画で学ぶドイツ語と文化 (3 回生以上)	府	勝山 紘子	前 (午前)	『ヒトラー〜最期の 12 日間』や『ウェイブ』、『エス』など複数のドイツ映画を用いて、ファシズムの構造と本質について学びます。ファシズムとは第一次世界大戦や世界恐慌の際に、ドイツやイタリアで台頭した独裁主義的、全体主義的な政治体制を指します。その実現には、人間の集団心理が大きく作用しています。ファシズムは、なんらかの社会的集団に属している限り、だれにとっても他人事ではないものです。ドイツの映画を通して、ファシズムがどのように実現されていくのかを学びます。そして映画の場面を抜粋して観ながら、ドイツ語を聴きとり、訳す練習をしましょう。授業の中では、それぞれの考えを発表してもらうこともあります。 ※ 3 回生以上を対象	ファシズムの構造には現代の SNS 炎上問題にも通じるところがあります。ドイツの映画を通して、ドイツ語力を向上させるとともにファシズムの本質を学び、話し合しましょう。(授業の内容上、観る映画の表現には刺激の強いものが含まれます。心理的に負担を感じる可能性のあるひとは受講を十分に検討してください。)		◎	

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
医療人類学	医	野上 恵美	前	文化人類学の一領域である医療人類学では、異なる文化や社会的背景を有する人びとが病気の原因をどのように考え、病気になった時にどのような治療を受けることが望ましいと考えているのかを明らかにしてきた。そして、人びとの病気への多様な対処法を提示し、病を抱える人びとの生き方や世界の見え方を探求してきた。本講義では、これまでの医療人類学的視点に基づき、日本だけでなく海外における医療に関わるさまざまな事例（呪術など一見すると医療的实践として捉えることができないような方法も含む）をとおり、西洋医学に基づく思考を相対化することにより、多様な思考の結びつきによって医療という概念が成立していることを理解する。	「生・老・病・死」は、すべての人に関わる重要な事象です。将来、医療現場に従事することを希望している人はもちろん、「医療人類学、何それ？」と思った人の受講も歓迎します。病院に行くこと、薬を飲むことだけが治療ではありません。医療を取り巻くさまざまな事例を通して多様性にあふれる世界をのぞいてみませんか。		○	
認知心理学	医	田村 昌彦	前	我々は日常生活において、外界（環境）から情報を取り入れて様々な意思決定を行っています。しかし、たとえば感覚器官（五感）から取り入れられる情報でも、その情報量は膨大であり、全てを処理することはできません。つまり、我々は外界の情報をそのまま活用しているのではなく、選択的に活用しており、そこには一定の傾向（特性）があります。 本講義は科学的知見に基づく近代の心理学の観点から、これらの仕組みについて紹介します。対象となる範囲は、知覚などのより環境に近い領域から、記憶や意思決定などの高次認知機能まで幅広く概観します。また、近代心理学は科学的知見に基づいた学問ですので、これらの検証方法についても紹介していきます。	心理学は世間一般で考えられているイメージと実際が大きく乖離している学問分野です。一般的に（メディアなどで）紹介されている内容は、応用的に一般受けする部分のみを取り上げています。皆さんには基礎的な内容を学んでいただくことで、基礎的な研究がどのように応用されていくかを実感していただけたと思います。	○		

《京都学》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
京都の歴史Ⅰ	府	菱田 哲郎 ほか	前	原始・古代から中世に至る京都の歴史を概観し、都がこの地に置かれるまでと、その後の展開過程について述べる。 取り上げる時代は現代からは遠いけれども、今日の京都が形成される基盤を考えることは重要である。京都盆地がどのような地域的特色をもっているのか、そこがいかんして首都となったか、あるいは、そこで展開した政治や社会、文化の特徴はどのようなものか、具体的な事例をもとに論じる。 3人の教員が歴史学（文献史学）や考古学の立場からリレー式で担当する。	この授業では、中世までの京都に関する諸事象のなかから、重要と思われる事柄の正確な理解をめざしますが、個別的知識の寄せ集めに終わらせないようにします。 それぞれの時代の京都の歴史的特徴をどのように捉えればよいのか、一人一人が考えてほしいと思います。	○	○	
京都の歴史Ⅱ	府	小林 啓治 藤本 仁文 上杉 和央	後	「都市京都の展開」 近世・近代京都の、都市としての展開をさまざまな角度から考察し、現代京都の特質を歴史的に理解する。	近世から現代にいたる京都の歴史をまんべんなく扱うのではなく、対象となる時代の京都を規定している要素にポイントを絞って解説していきます。時の権力・権威と都市京都がどのように結びついてきたのか、といった観点から考察を深めてほしいと思います。	○	○	
京都の文学Ⅰ	府	安達 敬子	前	日本の古典文学の主たる舞台となった京都、特に平安京について文学作品を題材にして様々な視点から考察する。具体的には平安時代から室町時代までの散文作品に現れる平安京や洛外の地名の持つ歴史的・文学的イメージの蓄積を探索する。	授業にはできる限り出席してください。 授業の中で多くの書物を紹介しますので、できる限りそれらを読むことに親しんでください。	○	○	

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
京都の文学Ⅱ	府	本井 牧子	後	京都の社寺を舞台とする文学作品を取りあげ、主に宗教的な視点からその背景をかんがえることにより、読みを深めてゆく。実際に取り上げる作品は仏教説話を中心となるが、物語や、能などの芸能などについても、その基底にある仏教的な要素に着目してかんがえてゆきたい。	授業の中で古典作品や関連書籍を紹介しますので、できる限りそれらに親しんでください。また、授業でとりあげる以外の作品についても、自分自身で調べてみるなど、興味関心を広げてほしいと思います。	○	○	
京の意匠	工	中野 仁人 ほか	後	京都の意匠（デザイン）を生み出した環境とはどのようなものだったのだろうか。平安京以来の都で培われてきた意匠について考えてみたい。 (1)「都」の意匠：京の自然と都市の景観 (2)「聖」の意匠：仏と神の空間 (3)「技」の意匠：飾りと工芸の技術 (4)「芸」の意匠：座と芸能の空間 (5)「衣」の意匠：染織・装束の図案 (6)「食」の意匠：茶礼・菓子・器の構造 (7)「住」の意匠：室礼の諸相	古くからの都である京都には今でもこの土地が歩んできた歴史の記憶が濃厚に残っています。みなさんが学びの場として選んだ京都において、身近な生活のなかに織り込まれた意匠（デザイン）の奥深さについて考えてもらおうきっかけとなればと思います。	○	○	○
英語で京都 (3回生以上)	府	山口 エレノア	後	概要：京都府立京都学・歴史館の「記憶アーカイブ」の資料を紹介する日本語ウェブサイト「資料ガイド」の内容を英訳します。歴史館の協力を得て、資料を閲覧します。 ※3回生以上対象。	Being able to use the Rekisaikan's great sources, in this class you will learn how to talk about Kyoto in-depth, going beyond the well-known aspects of Kyoto to tell the deeper, little-known stories. 京都について英語で発信する作業に取り組みましょう。		◎	○
資料で親しむ 京都学（リベラルアーツ・ゼミナール） (旧京都学・歴史館ゼミ（リベラルアーツ・ゼミナール）） (2回生以上)	機	藤本 仁文 ほか	後 (午前)	リレー講義・ゼミにより、京都学・歴史館所蔵の古典籍・歴史資料・絵図・指図・行政文書などを使用しながら、その扱い方や活用法について学ぶ。 目標 京都学・歴史館所蔵の古典籍・歴史資料と、講師の専門的知識・経験を活かして、少人数でのアクティブラーニングを行う。受講者が多様な資料とその活用法について知り、実見・解説することによって、資料価値を実感し、学びの地平を広げることを目指す。 ※2回生以上を対象	歴史館所蔵の古典籍・歴史資料を、専門家ならではの着眼点や切り口で見て触れて学びます。実物を用いながら文学・歴史・行政・建築学など多角的な視点で学んでいき、これまで身に付けてきた知識の総合化・体系化を目指します。		○	○
京都の文化と文化財	機	宗田 好史 澤田 美恵子 伊藤 翼斗 平井 俊行	後	京都には、長い歴史と自然との共生、内外との交流により、日本を代表する文化が形成されるとともに、優れた芸術や伝統工芸、伝統産業が生み出され、今も世界中の人々を魅了しています。 また、日本文化への世界的な関心が高まり、グローバル化が進行する中で、私たち日本人自身が自らのアイデンティティとなる日本文化の考え方や価値を十分理解することを求められています。 この授業では、京都の文化財や伝統文化、生活文化、和食、伝統工芸・伝統産業に携わる方々をゲストスピーカーとして招き、その根底に息づく人を思いやり尊重する心と自然との共生などの精神性や、保存・継承などの様々な課題について学ぶとともに、その課題解決のための方策について考えていきます。	京都府内には、国宝や重要文化財などの多くの文化財や茶道や華道、和食などの伝統文化、陶芸や染織などの優れた伝統工芸・伝統産業があり、多くの大学や個性ある企業が集まり、国内外から多くの観光客が訪れるなど、京都のブランド力の源泉となっています。 この講義を通じて、学生の皆さんが京都の文化財や伝統文化などの価値を再認識するとともに、その根底にある自然との共生やおもてなしの心など、これからの社会で求められる考え方を学ぶ契機になればと考えています。	○	○	

《リベラルアーツ・ゼミナール》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
現代イスラーム世界の文化と社会 (リベラルアーツ・ゼミナール) (旧リベラルアーツ・ゼミナールⅦ)	機	田村 うらら	集中・夏	世界三大宗教の中でイスラーム教は、信者数を着々と伸ばし存在感を強めており、日本でも近年特に東南アジア出身者などのムスリムと直接接する機会が増加している。しかし元々日本人にとって馴染みの薄い宗教であるうえ、9.11以降の偏向した欧米メディアによる情報も加わり、イスラームに対する誤解は強い。 本講義では、ごく基礎的なイスラームに関する知識に加え、トルコ等中東諸国を中心に現代イスラーム世界の文化と社会について学ぶ。	今後、ムスリムとのつきあいの機会は必ず増えます。イスラームや異文化理解に興味のある人だけでなく、専門から遠く事情に疎い学生諸氏の積極的な受講を歓迎します。学部時代こそ、多角的な視点に親しみ、解が一つでない諸問題の議論に習熟する好機です。講義とディスカッションを通して世界を見る力を鍛えてみませんか。		◎	○
感性の実践哲学 (リベラルアーツ・ゼミナール) (旧リベラルアーツ・ゼミナールⅦ)	機	桑子 敏雄	集中・夏	環境からの刺激を受け止め、解釈し、さらに環境に創造的に作用する能力を「感性」と捉えることができるのであれば、京都という地域空間の構造と履歴には、この地に生きた人々の感性的経験が蓄積されていると考えることができる。本講義では、空間の構造・空間の履歴・人びとの関心・懸念を総合的に捉える「ふるさと見分け」の方法によって、京都の地域空間を実践的に捉え、その感性的価値を考えてみたい。	日ごろ見馴れた風景のなかに自己の存在と自己の生が営まれる環境との関係を見出すための知的なトレーニングです。学生諸君には楽しみながら、新たな知の発見を経験していただきたいと思っています。		○	○
資料で親しむ京都学 (リベラルアーツ・ゼミナール) (旧京都学・歴史館ゼミ(リベラルアーツ・ゼミナール)) (2回生以上) (再掲)	機	藤本 仁文 ほか	後(午前)	※ 科目の概要と学生へのメッセージについては、科目群「人間と文化」の「京都学」を参照のこと。			○	○
現代正義論 (リベラルアーツ・ゼミナール)	医	瀬戸山 晃一 ほか	後	現実社会には、様々な不平等や格差、差別や不正義がみられます。それらをどの程度どのような法制度的な手段・方法で是正し、平等を実現すべきなのか？自由を追求すると現実には格差等が広がっていくことが少なくなく、また「平等」といってもスタートが結果が機会が運の平等かなどの、いずれの平等を追求すべきなのか？「正義(Justice)」とは公正(フェアネス)を意味します。しかし、正義をめぐる様々な構想が企てられ、功利主義、リベラリズム、リパタリアニズム、共同体主義など、主義主張の異なる多様な理論アプローチが具体的な問題をめぐって激しい論争を繰り広げてきています。本ゼミナールでは、グループディスカッションを取り入れながら、教育格差と入試におけるアフターマティブ・アクション、スポーツ競技におけるドーピング問題、医療格差、環境問題など、国境や世代間を超えた現代社会の課題や問題とそれらに対する処方箋について正義論を通して主体的に考えていきます。受講生のアクティブラーニングの促進と生きた教養・リベラルアーツの涵養を目指します。	法の象徴とされる正義の女神は、目隠しをして剣と天秤を手にしていることが少なくありません。そのことが示しているように正義(公正)を実現することは知識だけでは現実には容易ではありません。本ゼミナールでは、不平等や格差その他のさまざまな現実の問題を取り上げて、問題を解決・是正する処方箋について現代正義論に登場する多様な主義・理論の知的洞察から考えていきます。Mサンドルのハーバードの白熱教室のような双方向的な講義と多様な学部学科の受講生からなるグループによるディスカッションを取り入れた文理融合的な参加型授業を行います。ディスカッションが苦手な学生も歓迎です。	○	○	◎

■人間と社会

《社会科学の基礎》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
社会学Ⅰ	府	田島 知之	前	社会学は、社会が大きく変化する時代に、そのありようを理解するところのなかから成立してきた学問です。本講義では、社会学とはどのようなものの見方をするのか、その基本的な考え方、概念を学びます。そのうえで社会学の幅広い対象の中から、「家族」「ジェンダー」「メディア」「国家」「エスニシティ」など具体的なテーマを取り上げ解説していきます。自らの日常生活のなかで出会う事象を、社会的な視点から捉えなおすことができるようになることを目指します。	社会学を学ぶと、当たり前と思ってきた世の中を見る目が変わります。この授業をそのひとつのきっかけにしてもらえればと思います。授業の環境が許せばグループディスカッションもおこないたいと考えています。ぜひ積極的に参加してください。	○	○	○
社会学Ⅱ	府	中谷 勇哉	後	本講義では、社会学的な視座・理論と個別事例の紹介を通して、身の周りの社会現象を理解・分析するための方法を学ぶ。扱うトピックは「アイデンティティ」「ジェンダー」「ポピュラー音楽」「ネット右翼」など多岐にわたる。本講義では、これら社会にまつわる概念や現象を個別的に理解するだけでなく、それが他の社会現象や社会全体の歴史的な動きとどのような関係にあるのかというマクロ的な視点を獲得することを目指す。また、身近な社会現象から、そこに潜む格差や「不安の増大」などの社会問題を発見する目を養うことも本講義の目的である。	「なぜみんな Instagram に同じような写真をあげるのだろうか」「男らしさ / 女らしさを押し付けられるのがつらい」など、この講義ではみなさんが日常で感じる疑問や経験を「社会」という大きな視点から捉え、説明することを目指します。抽象的な概念も多く登場しますが、ぜひご自身の経験に引き付けて考えてみてください。	○	○	○
政治学	工	西村 真彦	後	国際社会は、世界政府や世界警察のない「無政府状態」である。そのような中で国際社会や、その主たる構成員である主権国家は、どのように秩序や平和を守ろうとしてきたのだろうか。本講義ではこのような問題意識を念頭に置きながら、国際社会や、国家の対外政策について考えていく。 講義の前半では、国際関係に関する基礎的な知識や物の見方を学んだ上で、歴史上、どのように国際秩序が作られ、崩壊し、さらに再建が試みられたのかについて見ていく。講義後半では、安全保障問題について、個別のテーマ毎に検討を深める。	東アジアでは、中国の台頭や北朝鮮の核・ミサイル開発が進む一方で、アメリカは相対的に衰退し一国主義を強めています。日本を取り巻く国際関係に変化が生じる中で、今後の日本外交や国際秩序、平和について不断に考えていく必要があります。 そのための手がかりを、この講義から得てもらうことができれば嬉しく思います。	○		○
国際政治	府	宮脇 昇 玉井 良尚	前	① 今世界で何が起きているのかを知る手掛かりとして、現代の主要な人類的課題としての国際問題をとりあげる。② 近現代の国際政治は、国家間の対立と協調という二つの極の間を揺れ動いてきた。今日の状況は、対立に、それも2極や多極ではなく、「無極」化した対立の時代にあるともいえる様相にある。無極化の時代において、人類的課題としての主要な国際問題を世界はどのように対処できるのだろうか、これについて理解を深める。③さらに、問題への対処能力の多くを動員することができる主権国家、主権国家を構成単位とする国際機関、近年ますます存在感を強めている非政府組織は、非国家的勢力の行動を理論的に理解する。	毎日、新聞を読む、あるいはインターネットでニュースをチェックする習慣を身につけてください。ニュースをチェックすることは、授業の予習・復習にもなります。	◎	○	○

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
経済学入門	工	人見 光太郎	後	経済学とは、人間や企業が経済的な誘因に対してどのように行動し、その結果として経済システムがどのように働くかを分析する学問です。 この授業ではトレードオフ、インセンティブ、交換、情報、分配という現代経済学の中心概念をもとに経済学の基本的な考え方と分析の方法を学びます。	経済に関する問題では立場の違いにより極端な議論が行われる場合がありますが、できるだけ客観的な事実目を向けるようになって下さい。	○		
法学	工	北村 幸也	前	法を対象とする学問である「法学」の特質は何か？ 法を扱うプロフェッショナルである「法律家」の思考様式はどのようなものか？ そもそも「法」とは何か？ 以上のような問いに、なるべく様々な観点から取り組んでみたいと思っている。	この授業は、「科目の概要」に掲げた問いに対する「答え」を親切に分かりやすく教えるものではありません。 むしろ、学生みなさんには、そのような問いに取り組む法学者の苦しい思考の過程を、冷たく分析することができるようになってほしいと思います。	○		
医療と社会	医	景山 千愛	前	どのような状態が「健康」や「病気」と呼ばれるのか、医師と患者の関係とはどのようなものなのか。こうした問いには、当たり前の答えがあるように思ってしまうがちですが、実は時代や社会状況によって、人々の病気観や、医師・患者の社会的役割は異なります。このような、医療の社会的側面について調査・分析を行う学問分野が医療社会学です。 この講義では、医療社会学の基本的な概念・考え方について学ぶことを目的とします。また、実際の医療に関する報道や事件と、各々の社会的な概念・考え方が実際の社会的出来事とどのように結びついているのか、一緒に考えていきましょう。	将来、医療に携わることを考えている方も、そうでない方も、ぜひご参加ください。 医療に関連する新聞記事や映像資料を題材として議論も行いたいと思います。みなさん自身も、医療問題に対してアンテナを立て、意識して接するようにしてみてください。	○		

《人間と社会》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
生活と経済	府	小沢 修司	後	経済（＝生活の営み）の仕組みを知ることは私たち自身が社会の主人公になる上で欠かすことができない。にもかかわらず、「経済学」には私たちの生活とは縁遠い難しい学問とのイメージがつきまとう。なぜ、「経済学」は日常の生活、暮らしから離れていったのか、「生活と経済」の切り口から経済学の特有なものの見方、考え方を平易に解説しながら、経済学の人間的再生を目指す。	大学での学習では2つのことが大切です。1つは「常識を疑う」こと。もう1つは「何故？」と問いかけること。授業では、みなさんが「当たり前」と思っているいろいろな考え方や観念を突き崩していきたくと思っています。 考え方の「再構築」にあたっては、「生き生きとして現実感覚」で「古典」を学習することが有効です。	○		○
心理学	工	大谷 芳夫	前	本講義で取り上げる主な内容は、心理学のうち実験心理学と呼ばれる分野に属するものである。実験心理学は、人間の心の働きを科学的に解明し、その法則を明らかにしようとする学問である。実験心理学が対象とする範囲は多岐にわたっており、医学、生理学、情報科学など様々な学問分野とも密接に関係している。 本講義では、心の働きの基本的な側面である、視覚（ものを見る働き）・記憶（ものごとを覚える働き）・学習（環境に合わせて行動を変化させる働き）の機能を取り上げ、基礎的な現象や知識を紹介するとともに、実験心理学の方法論や考え方について解説する。 また、これらの心理学的機能を支える、眼や脳の生理学的機構についても紹介する。	「「こころ」とはなにか」という問いは、人間にとって根源的な問題です。実験心理学は、この疑問に科学的な方法で答えを得ようとして取り組んできた学問です。皆さん一人一人が持っている「こころ」について、現在の科学はどう答えるのか・答えられないのかについて知り、自分自身を見つめ直すきっかけとなればと思っています。	○		

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
発達心理学	医	小川 恭子	集中・夏	発達というと子どもから大人になる過程をイメージするかもしれませんが。しかし心理学では、その時期だけではなく「人は生涯にわたって発達するもの」と考えられています。短い期間に大きな成長がみられる乳幼児期・児童期、大人になる心理的・社会的変化を感じる青年期、大人になってからの成人期・高齢期等、それぞれの時期について研究が進められています。 このような人間の生涯にわたる発達について、心理学的側面を中心に学ぶことを目標とします。発達心理学の諸理論を概観し、人生の各時期の発達課題や起こり得る問題、環境との相互作用等について学び、理解を深めます。	心理学では科学的な手法を用いて現象を明らかにしようとしています。しかし、人のことについて100%正解といえることはなかなかありません。そんな学問に取り組むのは難しく興味深いことです。自分自身で考えようとするのがその後に生きてくると思います。	○	○	
現代社会と心	府	石田 正浩	後	私企業であれ、公的組織であれ、良くも悪くも組織と関わらずにられないのが現代社会の特徴である。組織心理学は、そのような組織における人間の心理・行動を研究する学問領域である。組織がその構成員に期待する貢献と構成員が組織から期待するものを一致させることは難しく、さまざまな問題を産みつつ、現実の組織は動いている。本講義では、組織心理学が蓄積してきた適性・モチベーション・自己制御・コミットメント・リーダーシップ等についての知見を知ることを通して、組織を生きる人間の心理学的・行動学的特徴を理解し、自らのキャリア（職業人生）を考えていく上で有用な心理学的な視点を獲得することを目的とする。	自分が所属するゼミやサークル、アルバイト先といった集団も組織です。授業内容はそこの自らの体験と直接関連します。授業内容を自分にあてはめてみて理解を深めたり、学んだ知識を実際に応用して、理論の切れ味や切れなさを体感するようにしてください。	○		○
現代社会とジェンダー	府	中根 成寿 ほか	前	公正な社会の実現に向けて、すべての人を取りまく社会・文化の歴史や現状、制度や政策について受講生が理解できるようになるのが目標です。「ジェンダー」は重要な変数の一つではありますが、必ずしも性差だけを扱う講義ではありません。自分も含めた全ての人の人権について、積極的に関心を持ち続けることの導入の講義です。 内容構成の柱は、大きく3つに分けられます。一つは、人類の歴史をジェンダーの視点から捉え直すこと。二つ目は、ジェンダーをめぐる制度・政策について、国内外の条約や法律、社会政策等からその到達点や課題を考察します。三つ目は、言語や文学、心理学、教育などがジェンダーを生産・再生産するという問題等を考えます。 授業の方法としては、主には講義形式に依りつつも、最終講義は学生からのアンケートに答える形で、講義担当者全員による討論会形式によって行い、受講生と講師団との「対話的学習」を実現したいです。	ジェンダーは、聞いたことがあるけどよくわからない言葉・概念かもしれない。なかには、「女性差別の問題である」とだけ理解しているひともいるかもしれない。近年注目が集まるSOGI（性的指向・性自認）も扱いますが、ジェンダーは社会の構造を構成する要素の一つであり、諸科学（自然科学・人文科学・社会科学）にとって、すでに「当たり前に考慮にいれるべき要素」として定着しています。自分が自由に行動し、思考しているように思えたとしても、全員が社会からの影響を受けています。この講義の履修を終えたとき、ジェンダーという概念は、あなたの「日常」となり、社会や人間の見え方が大きく変わっていることでしょう。	○	◎	○
現代教育論	工	塩屋 葉子	前	我が国の近代公教育は、明治維新の「学制」発布に始まる。この時、我が国は歴史上類を見ない程の大きな教育改革を果たすのだが、同時に、学歴社会や受験競争など、解決を急務とする多くの教育問題の発端もここに求めることができる。その後、幾度かの大きな教育改革に迫られ今日に至るのだが、本講義では、特に現代の教育改革に焦点を当て、その実態を明らかにするとともに、今後の課題を考察し、我が国の教育の在り方を展望する。	みなさんは今、学校教育の最終段階で学んでいます。この時点において、自分がこれまで受けてきた学校教育とはどのようなものであったのかを振り返り、そして、これからの教育について展望することは、発展的な自己形成を図っていく上で有意義なことだと思います。教育について、一緒に考察していきましょう。		○	○

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的の区分		
						A	B	C
環境と法	工	須田 守	後	本講義の目的はふたつです。(1) 現代社会の重要論点たる環境問題に対処するための、法的なしくみを学びます。(2) これを通じて、法学の基本的な考え方を具体的に習得します。 社会問題を解決するアプローチにはさまざまなものがありますが、そこで「法」は重要な役割を果たしています。「持続可能性」への取組からは、裁判の場面に限られない、政策実施手段としての法の様々な側面も明らかになるでしょう。 授業ではいろいろな環境問題およびそれへの法的対応に触れますが、そのうちひとつかふたつをピックアップし、じっくり向き合うことも予定しています。そこでは実際の法律や判決といった生の素材も(大きな負担にならない程度に)扱います。	本講義は、みなさんが法学をすでに学んだことも、今後専門的に学ぶことも前提としていません。「環境問題」や「法学」に関心を持つ方を広く歓迎します。 学部学科問わず、各大学で学ばれたみなさんは様々な形で社会のしくみを設計し活躍していくことでしょう。そのときに法学的な見方の意義と限界とを意識できるようになるための、お手伝いができればいいなと考えています。	○		
観光学α (2 回生以上)	府	宗田 好史	前 (午前)	京都市内では近年、外国人観光客が急増しました。LCC とネット予約の普及、欧米諸国の観光客に加え、ビザの緩和もあり東アジアや東南アジアからの観光客が急増したためです。同じ現象は、ヴェネツィアやバルセロナでも起こり、観光公害と呼ばれました。それが昨年からコロナ禍で消滅し、多大な影響が出ています。 とはいえ、京都には長い観光の歴史があります。江戸期に始まり、明治以降の 150 年間にもたびたび観光客の急増があり、そして急減も経験しました。そこで京都市では、観光公害を避け、様々な課題を解決するため、世界最先端の「京都モデル」都市であることを、2019 年 12 月の国連観光会議(京都)で宣言しました。UNWTO(国連観光機関)が唱える「持続可能な観光」、UNESCO の進める文化観光の理念を踏まえ、皆さんに身近な京都の観光歴史と実態研究をもとに、最新の観光施策をお話しします。そして、観光文化の再生について考えていきます。 ※ 2 回生以上を対象	観光学は、社会学、地理学、人類学など数多くの領域に関係します。この授業では現在の状況に即して、様々な分野の研究を選んでお話しします。最近の日本内外の観光問題を、この京都と世界各国を比較して考えてもらいます。 世界有数の観光地・京都で学ぶ皆さんには、世界のどこの学生よりも観光に詳しくなって欲しいと思います。世界のどこを旅しても、京都ではこんな観光政策、文化政策があると自慢できる十分な知識を身に付けて下さい。なお、この共同化科目に 2020 年度から「京都の文化と文化財」を開設しました。そちらものぞいてみて下さい。	○	◎	○
SDGs をまなぶ	工	實珍 輝尚 ほか	後	政府、省庁、自治体、企業、各種団体が取り組む SDGs の活動を通して、SDGs の理念と実践を学ぶと同時に、現代社会の抱える諸問題とその解決方法を学生自らが考える契機とします。様々な分野から招いたゲスト講師の連続講義を聞いて、SDGs について理解を深めた後、2~3 週のグループワークを行います。	開講して 2 年目となります。昨年は、企業や自治体、政府、国会議員、福祉団体、協同組合など、様々な立場から、地球と人類の持続可能性に待ったなしで取り組む講師の熱い思いと具体的実践を聞くことができました。各講師の人となりや経歴に触れることで、学生諸君の将来のキャリア形成のヒントにもなります。グループワークでは大学を超えた友人も作れます。ぜひ受講してください。 ※ 令和 2 年度受講生が、授業課題として次年度受講生に向けた講義内容紹介動画を作成してくれました。以下の URL もしくは QR コードからご覧いただけます。 https://learning-sdgs.wixsite.com/home 	○	○	○
現代医療の人間観	医	杉岡 良彦	後	医学の根底には、それを支える科学論や人間観があります。それらの理解は医学生だけでなく、広くあらゆる学部の学生にも重要であり、それぞれの立場から批判的に考察すべき問題であると考えます。本講義では、医学・医療の前提となる人間観に注目し、分子生物学や EBIM という科学的方法との関係を考えます。さらに、精神科医である V. フランクルの人間観を取り上げながら、病に苦しむ患者さんに医学・医療は何ができるのか、できないのかを考えてみたいと思います。医学という学問が、単なる科学の応用ではなく、哲学、倫理、社会学など、様々な学問領域に開かれた学問であることを、人間観に注目しながら考えたいと思います。	この講義はすべての学部の学生に開かれています。医療と関わらない人はまずいないと思いますが、この身近な医療の基礎となる医学を、人間観の観点から考えます。この講義を通じて、これからの人生や将来の研究を考えるヒントを得ていただければ幸いです。前期の「医学哲学」を履修しなかった医学生の皆さんも大歓迎です。	◎	○	○

《京都学》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
近代京都と三大学	機	宗田 好史 並木 誠士 八木 聖弥 増村 威宏 吉岡 真佐樹	前	京都と深い関わりをもつ歴史ある三つの大学で学ぶ学生さんのために、三大学が誕生した背景としての京都の近代史をお話しします。そして、近代化過程で三大学が果たした数々の役割を考えます。三大学の誕生と共に、京都では近代教育制度が確立し、産業が成長・発展してきました。これは、皆さんに身近な様々な町の記憶を再確認することになります。そこから現代社会での大学の役割を考え、学生さんと教員が、京都の地域社会と関わっていく意味を考えます。 三大学は、京都の産業・経済だけでなく、医療、教育、福祉に深く関わり、京都の企業や施設、社会、行政機関を発展させてきました。それぞれの大学の歴史と京都の町の近代史を学ぶことから、皆さんが暮らす京都の未来を展望してもらうようにお話しします。その中に、皆さん方自身の将来像を見つけ出してください。 三つの大学から講師の先生方が来られ、テーマに沿って順番に講義していきます。	京都の伝統ある三大学に入学された皆さんのために、三大学の100年以上にわたる歴史を分り易く学ぶ授業です。皆さんが、今後母校に誇りを持つと同時に、各地で活躍する数多くの先輩諸氏を知り、その功績を知ってもらいます。先輩の昔話や自慢話を楽しく聞ける基礎知識になります。そして、皆さん自身も優秀な先輩方に続き、京都や京都と関連する各地の人々、経済界や地域社会に貢献しようという意欲を持ってもらえる講義になると思います。 学校の始まり、近代農業（稲作、醸造・発酵）や近代医学・病院の始まり、工芸とデザイン（意匠）の誕生、疎水と先端技術等のお話です。	○		○
京の産業技術史	工	畑 智子	前	京都は幕末から政治的混乱と戦火に見舞われ、さらに東京への遷都が決定的となり、心情的にも経済的にも大きな打撃を受けました。しかし他都市に先駆けて新たな近代都市としての町づくりと産業の活性化、貿易振興をすすめていきます。 京都では明治四年に国内で初めて博覧会が開かれ、その後海外で開かれた万国博覧会にも積極的に参加します。ここでは京都博覧会、内国勲業博覧会、万国博覧会の動きを軸に染織や陶磁器等の伝統産業の新たな進展をたどり、先進的な京都の産業界の取り組みについて学びます。	明治期は京都のみならず国家の存亡にかかる危機的な時代でした。その際に人々がどのように知恵と力を出し合って乗り切ったかを知ることは、これからの厳しい時代を生きる若者に大きな指針を与えてくれると思います。歴史の事実をただ追うのではなく、人々の置かれた環境や状況を踏まえ、彼らの思想や生き様にまで思いを馳せながら学んでほしい。		○	○
現代京都論	府	大島 祥子	前	講義では、学び、暮らすまちである「京都」をより深く感じ、考える機会を提供します。京都の現代で起きている事象をテーマごとに考察し、京都の特性と課題を読み解き、未来のまちづくりを考えることを目指します。講義内容は、前半で現代の京都のまちづくりの基盤ともいえる、都市経営や庶民の暮らしやまちとの関わりの変遷（まちづくり史）を学習し、さらにまちづくりの基盤・組織、コミュニティについて学習します。これらをふまえた上で、後半では、テーマごとの事象を読み解きます。行政施策を取り上げるものが多いですが、NPOや民間事業者等が展開する事例、地域で展開される活動なども採用してテーマを深めていきます。	京都の歴史や自治の基盤を踏まえ、行政、市民活動、大学、企業など多様なセクターによる京都のまちづくりやその背景にあるものを学びます。今まさに京都で起こっている様々なテーマを取り上げ、解説します。講義を通じて学び、暮らす京都をより深く理解し、自分の言葉でそれに対する見解をもって欲しいと思います。		○	
京都の経済	機	小沢 修司	後	本講義では、府内の企業をはじめ、企業や産業の育成を支援する関係機関・団体、自治体などからゲストスピーカーの方を招き、様々な立場から府内の経済・産業の現状や課題、経営環境の変化への対応や地域経済に果たす役割などをお話しいただきます。 こうした事例を通じて、京都の経済が抱えている課題とともに、企業や産業の育成にはどのような支援が必要であるのか、課題解決の方策について学ぶことを目的としています。	京都府内には、創業から100年以上続く老舗企業からベンチャー企業まで、様々な企業が活動しており、世界をリードする企業から数多くの小規模企業に至るまで、京都に誇りと愛着を持った京都ブランドや京都商法と呼ばれる特徴を有しているのが京都の経済です。 また北部の丹後地域から南部の山城地域に至るまで、各地域の歴史や自然環境などに育まれてきた様々な産業があることをご存じでしょうか。 本講義を通じて、学生の皆さんが府内の企業や産業に魅力を感じ、各地域への関心を高めるとともに、大学生活を通じて、何を学び身に付けるべきか、考える契機になることを望みます。			○

《リベラルアーツ・ゼミナール》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
現代社会に学ぶ 問う力・書く力 a・b (リベラルアーツ・ゼミナール) (旧リベラルアーツ・ゼミナールⅡ)	機	児玉 英明	前	「高校での学び」から「大学での学び」へ転換するにあたって、不安を感じている1回生も多いだろう。本ゼミナールは、そのような1回生を対象として、「論文とはどのような文章なのか」といった初歩から始める。 大学での学びは、「聴く」ことや「読む」ことといった受動的な学びに、「問う」ことや「書く」といった能動的な学びが伴って、初めて完結する。本ゼミナールでは、「考えるという行為」と「書くという行為」の相関を論じた基礎的な文献を教科書にして、大学で学ぶためのリテラシー能力の向上に努める。テキストは苅谷剛彦（オックスフォード大学教授）が学部生を対象に、レポートの書き方をまとめた『知的複眼思考法』を精読する。 『「問い」を意識しながら読み、『問い』を意識しながら書く』という、すべての科目に共通する初年次教養教育を、少人数のゼミナール形式で展開する。	大学での学びは、自ら「問い」を立てることです。本講義では、自ら立てた問いについてレポートを作成し発表するという、書くという行為に重点を置いたアクティブ・ラーニングを展開します。 パソコンや図書館の使い方も含め、1回生を対象に初歩からレクチャーします。最初は小学生レベルの反論文の書き方から始めますが、最終的には東京大学など多くの大学で広く使われているロジカルシンキングの教科書を読みこなすレベルを目指します。 授業の後半では、「なぜ、トランプは大統領になれたのか？」という現代社会の問いに向き合います。テキストとして『ルポ トランプ王国 もう一つのアメリカを行く』岩波新書、2017年を輪読します。		○	◎
社会科学の学び方 (リベラルアーツ・ゼミナール) (旧リベラルアーツ・ゼミナールⅢ)	機	児玉 英明	後	日々の新聞で取り上げられるニュースの中で、何か気になっているテーマがあるだろうか。本ゼミナールは、文系であろうと理系であろうと、時事的な問題への知的好奇心を持っていて、教員や仲間と議論する力を身につけたい学生を対象とする。 社会科学の学び方とは、学生一人ひとりが「人生をいかに生きるべきか」を問うことであり、その生き方を問う問いが「自分がいま生きている社会をどう見るか」という社会認識を問う問いと不可分に結びついていることである。 本ゼミナールでは、古典として定評のある文献（吉野源三郎『君たちはどう生きるか』岩波文庫、1937年。丸山眞実『日本の思想』岩波新書、1961年。）を、現代にひきつけて精読する。そして、社会科学のセンスを磨くために映画（山田洋次監督『母べえ』など）を鑑賞し、多様な考えを持った受講生と語り合う。	大学に入学時、教授に次のように言われました。メートル単位で本を読み！田舎者の私は「メートル単位」という発想に、なぜか興奮を覚えました。1回生は、学問へのいざないとして、新書本をよく読みます。新書本などは、1冊、2冊買って読んでいるようでは不十分で、やはり「棚ごと買って読む」くらいの気迫がなければ、学問の本質には近づけないでしょう。 本講義では、教養教育の古典や映画を教材に使いながら、「教養教育の原理像と思想性」を学びます。 授業では、毎回、グループ・ディスカッションを行うことで、三大学の多様な学生と意見交換をすることが出来ます。紅葉ハイキングをしたり、大文字山に登ったり、ゼミ以外でも楽しく交流しています。		◎	○
世界はいま (リベラルアーツ・ゼミナール) (旧アメリカと中国はいま (リベラルアーツ・ゼミナール))	機	榎原 美樹	集中・夏	グローバル化が進む世界では、人やモノがこれまでより自由に移動し、情報はネットを通じて瞬時に伝達できるようになりました。一方で、グローバル化への反発から「自国第一主義」が台頭、国際協調が後退し、国家間や社会の中でも格差が広がってきました。さらに、新型コロナウイルスの感染拡大が世界規模のパンデミックとなり、各国はその対応に追われ、世界経済の低迷は必至です。 この授業では、こうした状況をどのように捉え、日本や日本社会とどう関係するのか、また日本から何を発信してゆくべきなのかを、ともに考えてゆく内容にします。	担当するのは、NHKで長年、世界の政治や紛争・災害といった事象を日本に伝えてきた国際ジャーナリストです。これからグローバル社会で生きていこうとするみなさんが、世界の動きをとなえながら、自分は何を発信してゆけばよいのかを考える一助となればよいと考えています。 2021年もコロナ禍は続くのか。延期された東京五輪は無事開催されるのか。国際情勢は日本とも直結しています。国際社会と日本の関わりに、関心を持つ方は是非受講してみてください。		◎	○
経営哲学 (リベラルアーツ・ゼミナール) (旧リベラルアーツ・ゼミナールⅣ) (2回生以上)	機	児玉 英明	後	【前半：マーケティングの考え方】 前半は沼上幹『わかりやすいマーケティング戦略 新版』有斐閣、2008年を精読します。扱うテーマは、「マーケティング・ミックス 4つのP」「ターゲット市場の選定 セグメンテーション」「製品ライフサイクル」「市場地位別マーケティング戦略」です。 【後半：マーケティング事例研究】 マネジメントとは、問題発見・問題解決の積み重ねです。本講義では、具体的なケース・スタディでビジネスの場面を想定し、学生に問題発見・問題解決の思考を迫体験させることが目的です。後半は「ネスレ日本 ネスカフェアンバサダー」「パナソニック 電動歯ブラシ ポケットドルツ」「緑茶飲料戦争 おいお茶、伊右衛門、生茶」「ビール戦争 アサヒスーパードライ、麒麟一番搾り」「スターバックス、ドトール、セブンイレブンのコーヒーをめぐるポジショニング」を扱います。 ※2回生以上を対象	民間企業に就職が決まったが、「経営学」も「マーケティング」も勉強したことがない4回生を歓迎します。これから就職活動をしようとしている3回生、2回生の受講も歓迎します。 「経営学の考え方」を基礎から説明します。前提知識は不要ですので、理系の学生も安心して受講してください。 授業では、毎回、グループ・ディスカッションを行うことで、三大学の多様な学生と意見交換をすることが出来ます。	◎		○

■ 人間と自然

《自然科学の基礎》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
物理学Ⅰ	府	安田 啓介	前	この講義では身の周り（から宇宙まで）で起きる様々な物理現象を支配している原理とその意味を理解することで、物理学的視点からの考える能力を養うことを目的としている。また、自然科学の基本となる単位や次元および簡単な物理公式を説明し、物理学で重要となる保存則などの概念についても講義する。 講義の流れとしては、自然科学における物理学の歴史を概観し古典力学（ニュートン力学）の成立までをガリレオ、ケプラー、ニュートンなどの考え方とその業績について講義する。また、古典力学が地球上から天体までの様々な物体（天体）の運動を正しく表すことができることを説明する。	科学技術の急速な進歩に伴い、先端技術を取り込んだ様々な機器が普及し、その恩恵を受けながらも、多くの人々にとって中身は不明（ブラックボックス化）となりつつある。 本講義を通してこういった日常的に目にする様々な事象について物理的・合理的に思考を重ねて追及するスタイルを身につけてもらいたい。	○		
化学概論Ⅰ	工	三木 定雄	前	高度な技術、資源、エネルギー、環境など、現代の社会を考えるに不可欠なキーワードのどれもが、物質と密接に関係しています。その意味で、物質を対象とする科学である化学は、現代社会で知識人たろうとするに、必須の素養といえます。この講義では、物質について理解が、どのように変遷し、今日での理解に至ったのかを、化学における歴史上のエピソードをなぞりながら学習し、それを通じて、“物質のなりたち”と“物質の変化”という化学の大きな輪郭を勉強したいと思います。	わが国では、“きたるべき受験への対策”に縛られがちな授業のあり方が、自発的な知識欲を減退させているのは否めません。軽重の差はあっても、皆さんは高校化学にふれてきたと思います。しかし、化学の面白味をふつつと感じた人は、少ないかも知れません。大学に合格されたいま、そのおもしろさを再発見しながら、教養としての化学に触れていただければと思います。	○		
化学概論Ⅱ	工	石川 洋一	後	暗記するのではなく、大学生として感覚的に身につけておいて欲しい（物理）化学的な考え方が幾つかある。それは、「熱力学」と「量子化学」と、それらを基にした「化学反応論」である。しかし、高校のときに学んだ化学とこれらの考え方の間には、比較的大きなギャップがあるように思われる。このギャップを少しでも埋めるために、「サビと老化」、「クーラーの効率」、「視覚と色」といった身近な化学現象を挿話として織り込みながら、上記三つの考え方の概要を論述したい。	化合物名も化学反応式も覚えなければいけない。その複雑多岐性ゆえに化学は暗記に頼らなければいけなさそうに見える。しかし、物質を構成する粒子は“原子核”と“電子”であり、化学的性質は電子によって支配されているといっても過言ではない。この電子を理解することで、暗記に頼らず演繹的に化学を理解する筋道を示す。	○		
生物学概論Ⅰ	工	疋田 努	前	自然科学の中で生物学が対象とする生物は、物理学や化学が対象とする物質とは異なっている。それはゆっくりと進化し、分化して多様化してきた。生物というものがどのようなのかを、性、寿命などの生物の特徴とその構造について解説する。そして、生物がどのように認識されてきたかを、博物学史から概観し、種とは何か、個体とは何かについても考察する。	生物学が対象とする生物はヒトを含んでおり、生物とは何かという問いは、ヒトとは何かという問いにつながる。だから生物について知ることは、我々自身が何者かという問いに答えることになる。現代の生物学がヒトを含む生物をどのようなものと考えているかを学んでみよう。	○		
生物学概論Ⅱ	工	疋田 努	後	地球上には多様な生物がすんでおり、それらはただ一つの生物に由来すると考えられている。それらの生物がどのように分化してきたかをたどり、多様な動物群、なかでも、我々を含む脊椎動物の起源とその多様な動物群の特徴と進化について概観する。多様性を理解するには分類学と系統学が必要となるので、これについても説明する。	我々の周りにいる多くの生物にはどのような関係があり、どのように進化してきたかを見てみよう。我々が属する脊椎動物は海で生まれ、その一部が陸に進出してきたもので、ヒトも祖先となる魚類、両生類、爬虫類の特徴を残しています。	○		
生命科学講話	府	塚本 康浩 ほか	集中・夏	遺伝子、植物、動物や病原体の研究、さらにはそれらを基盤とした食品や医療への応用について学ぶ。教科書などでは見ることが出来ない教員が実際にやってきた研究成果を実感し、生命科学探究の本質を「講話」という形で体験する。	生命科学の研究における生データや今後の将来性を、実際に手を動かして実践してきた研究者（教員）から感じ取って欲しい。さらに、生命科学の研究に興味を持って貰えたらと願う。	○	○	

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
地球の科学	工	酒井 敏	後	地球は太陽系の中で唯一、液体の水を持つ惑星として生まれ、進化を遂げて来た。水を持つことで、地球は他の天体と大きく異なる運命をたどることになった。 この講義ではまず、宇宙誕生から現在にいたるまでの歴史を振り返り、「地球誕生の物語」を解説する。後半は、「現在の地球環境」を維持する大まかなメカニズムについて解説する。 日常生活とは全く違う視点から、ピュアな気持ちで地球を考えることで、「我々の地球」に対する認識は大きく変わるはずである。	世の中、真面目だけでは通用しない。高校までは、真面目に100点を目指せばよかった。しかし、状況が変われば、その点数そのものが無意味になる可能性もある。それが自然界の掟であり、人間社会もその中にある。地球と地球生命の歴史は、その事実を雄弁に物語る。これを知ることは、子供から大人への第一歩である。	○		○

《人間と自然・科学》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
人と自然と数学 α	工	峯 拓矢	前	高等学校や大学初年次で学ぶ数学の題材は主として19世紀までに確立したものであり、中にはその考え方が4000年以上遡るものもあります。本授業ではいくつかの題材についてその起源にさかのぼって、元々の考え方に触れ、それらがどのような人の営みや自然との関わりの中から生まれて来たものであるか、それらが現代社会でどのような役割を果たしているかを理解していきます。 歴史的な資料等に基づいての講義と演習から成り、演習では、歴史上の元々の考え方に触れながら、現代数学やコンピュータ・テクノロジーなどで用いられている計算法についても学んでいきます。	この授業を通して、これまでに習ってきた一つ一つの数学的概念のルーツやそれを作り上げてきた人々の努力を知ること、数学をより身近なものとして再発見してくれることを期待しています。	○	○	○
人と自然と数学 β	工	磯崎 泰樹	後	ランダムな現象が社会生活のいろいろな側面に影響することを学ぶ。ここでの社会生活とは、消費者とし、患者として、投資家としての生活などがあげられる。確率論、数理統計学、疫学、心理学、金融理論などから多くの例を考慮する。講義の目標としては次があげられる。 1 統計でウソをつく人に騙されない消費者になる 2 主治医が副作用発生率について教えてくれるときに、適切な質問をすることで、誤解を防げる患者になる 3 金融リスクを正しく把握し、投資すべきでない金融商品を知る	ランダムな現象に対しては、日々社会に誤解が生じています。その誤解を悪用して合法的な金儲けを企む人がいて、ときとして消費者は、買わなくても暮らせるはずの商品にお金を払っています。本科目をきっかけにして、皆さんが、だまされそうになりながら踏みとどまれる消費者になれば、私にとっても望外の喜びです。			○
人と自然と物理学	工	萩原 亮 ほか	後	「物理」は、親しみのない現象や数式をあやつる、敷居の高い学問だと感じる人が多いのではないだろうか。しかし物理学は、太古より自然現象を見つめ利用してきた人間が、そこに潜む謎と規則性に気づき、見晴らしのよい理解を求めて築き上げてきた「わかる」学問でもある。本講義では、こうした物理学的な理解と応用が獲得されていくプロセスにおいて活かされる考え方や方法論の特徴を紹介し、平易に解説する。 講義は、物理学を研究手段にしている複数の担当者が、それぞれ独自の切り口・視点をテーマに掲げて、様々な側面や分野を広く見渡す形で進める。 本年度のテーマとして、以下のⅠとⅡを予定している。 テーマⅠ：「物理現象を語る言葉と論理」（萩原） テーマⅡ：「最新の物理学とその活躍」（武田、一色）	物理学的な事柄の理解は、実は、数式上というよりは、言葉の上で展開し、できあがっていくものです。このことを悟ると、物理の書物が親しみ易いものになります。言葉の使い方を鍛えることが物理学の入門になる…この意外さを体験して下さい。 また、最新の物理学が活かされている場面とその発展の方向についてもお伝えする予定です。 皆さんには「観客」ではなく「参加者」として、物理学の世界に一歩だけ足を踏み入れてもらいます。	◎		○

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
生物学的人間学	医	小野 勝彦 ほか	前	「人間」はさまざまな角度から眺めることが出来る。哲学的、文学的、社会的な観点から、などなど。理科系の視点からでも多様な見方（物理、化学などなど）ができるが、本講義では生物学的視点から理解しようとするものである。すべての生物は、細胞→組織→器官（臓器）→個体という階層性を持っている。この普遍性を土台として、生物としての人間の特殊性を見ていく。前半で、普遍性を求めて細胞レベルからの理解（さいぼうがくてき人間学）につとめ、後半では臓器・器官レベルからのアプローチ（かいぼうがくてき人間学）を、特殊性を考えつつみていく。	できるだけ誰でもわかるように細胞や器官を紹介していく。特に、世間で流布されている細胞や内臓や体に関する「うわさ」の類が本当かどうか、明らかになっている範囲で紹介する。37兆ともいわれる細胞から成る自分の体を少しでも知りたい人に受講してもらいたい。また、頭の中にある細胞や体のイメージを、受講生の間で紹介しあう時間も持ちたい。試験は少々こむつかしいかも知れない。	○		
科学史	工	大西 琢朗	前	科学の歴史は、事実や法則の発見の歴史であると同時に、それらを発見し確かめるための「方法」の歴史でもあります。現在ではそうした「科学的方法」こそが、知識の客観性を保証する絶対的な基準のように考えられていますが、じっさいにはそれらはある特定の時代の特定の場所で生み出された、歴史的で偶然的な存在でもあります。また、科学と言っても一枚岩ではなく、そこには異なる起源と発展経過をもつ複数の流儀（スタイル）が並存しています。この講義では、そうしたスタイルのいくつかの歴史を概観し、それを通じて、科学の客観性と歴史性・多元性とのあいだの微妙な関係について考察します。	ひとは既存の枠組みを完全に離れてものを考えることはできませんが、歴史を学ぶことで、そこから少し自由になれるように思います。科学や数学についての知識はとくに前提としませんので、どうぞ気軽に積極的に授業に参加してください。	○	○	
環境問題と持続可能な社会	工	山田 悦	前	日本ならびに地球規模での環境問題の経過と現状を述べ、求められる持続可能な社会に向けての取り組み、特に私たちのライフスタイルの見直しの必要性について議論を深める。講義の内容としては、公害問題、地球環境問題、自然生態系の保全、持続可能な社会への取り組みなどを取り上げる。 また、受講生に環境問題を自分たちの問題としての当事者意識を持ってもらうよう促していきたい。	環境問題の全体像を把握した上で、環境問題の背景・原因を理解し、合わせて、自らの日常生活と環境問題のかかわりを知り、可能な限り環境問題を解決するために行動を起こしてほしい。特に、資源・エネルギー問題や自然共生社会への関心を深めてほしい。	○		○
食と健康の科学	府	小林 ゆき子 ほか	前	「食」と「健康」をテーマに、健康科学、栄養学、食品学、食品衛生学、食事学、栄養教育論、運動生理学等の科学的な観点からオムニバス形式で概説する。そして、食と健康の課題を知り、これからのわが国及び世界における食と健康の在り方について考察する能力を養うことを目標とする。	京都府立大学食保健学科教員によるオムニバス形式の講義を行います。学生は食と健康に関する知識を修得するだけでなく、良い食生活を実践する能力と、それを周囲に広げる能力を身に得ることを目的とします。関心のあるテーマについてレポートを作成し、最終回は輪読と討論を行います。	◎		○
キャンパスヘルス概論	工	荒井 宏司	前	健康の意義を学び、肉体的、精神的な自らの健康を創造することをサポートする。最新の医学に基づき、これから学生生活において、また社会に出てから遭遇するであろう様々な疾病に関する正しい知識を身に付ける。 誰もが一つずつ持っている「人体」は、すぐ手の届くところにある現代科学のフロンティアである。自らの身体で「科学する心」を学び、巷にあふれる誤った健康情報に対する耐性を身に付けることも目的とする。	これから始まる大学生活を乗り切りたいものにするためには、まず諸君自らが健康であらねばなりません。この講義では、最新の医学に基づき、これから皆さんが出会うであろうさまざまな病気に関する正しい知識を身に付け、巷にあふれるトンデモ健康法に対する耐性を持ってもらうと思っています。	○	○	○
時間生物学特論 (修士課程大学院生まで対象)	医	八木田 和弘	集中・夏	生物は約37億年前に誕生してから地球の自然環境に適応することで繁栄を遂げてきた。その過程で、地球の自転により生ずる昼夜のサイクルを正確に予測するシステムとして、自らの体内に精巧な『時計』を作り上げた。この日周性変化を予測する生物装置が『体内時計』である。 バクテリアからヒトを含む哺乳類に至るまで、地球上のほとんどの生物に『体内時計』が備わっており、生体機能の『概日リズム』を発現させている。本集中講義では、体内時計の基礎から疾患との関連まで体系的に議論する。 ※1 回生～修士課程大学院生対象	『体内時計』ってなんだ？最近テレビや雑誌などでもよく目にするようになった『体内時計』。生命の神秘を感じる話題から、睡眠や食事のタイミングといった身近な話題まで、『からだの時間』を科学します。	○		○

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
エネルギー科学	工	林 康明	前	エネルギーの需給は環境問題と関連して人類の大きな課題となっており、総合科学として取り組んでいく必要がある。授業では、エネルギーの物理的な理解と共に、様々な発電方式（水力・火力・原子力・再生可能エネルギー）、エネルギーの効率的利用や貯蔵・輸送方法に関する工学について学ぶ。同時に、環境と生産活動を両立させるにはどのような手段を取るのが適当なのかについても考える。 また、ものごとを科学的に捉えて事実を客観的に判断することとはどのようなことか、さらに人類の未来を考えたときに現代に生きる私達はどのような方向に進むのが適当なのかなどについても議論を行う。	産業革命以降、科学技術の発展とともに人類は豊かな社会を築いてきました。しかし、20世紀後半から様々な課題があらわになってきています。産業の基盤となるエネルギーの供給・利用方法についても、環境や安全と両立させる方策として、いろいろな考え方が世の中では錯綜しています。こうした中で、客観的で公平な態度で臨むには、まず科学的に真理や事実を知って理解することが重要です。一方で、科学・技術の知識だけで明確な結論を出すことが難しい場合もあり、選択は私達に託されます。	○	○	○
現代科学と倫理	府	岩崎 豪人	前	現代科学にかかわる様々な倫理的な問題を考える。科学技術倫理の基本的な考え方を学びながら、現実の問題への倫理的な対応を考える。現代社会は科学技術の様々な恩恵を享受しているが、一方で、その危険性も顕在化し、科学技術に対する不安も大きくなってきている。身近な技術的製品のリスクから、社会を変えていく科学技術まで、根本的な所までさかのぼって、問題をとらえ直し、吟味、検討を行う。具体的な問題を取り上げながら、当たり前になっていることが、実はそうではないことを認識し、社会への理解と自分への理解を深める。	講義形式で基本的な論点は整理しながら、具体的な問題を議論します。倫理的な問題を考えていくには、自分の感覚だけでなく、他の人の感じ方や意見も知りつつ、どうしていくべきかを考える必要がある。授業中に自分の意見を言えるように、積極的な授業参加を期待します。			○
医学概論 (2回生以上)	医	奥田 司 ほか	後(午前)	わが国で西洋と同等の高等医学教育が開始されたのは、明治維新のころ、東京帝国医科大学に代わって、京都府立医科大学の前身である京都府医学校（京都療病院）を含めたいくつかの府県立の医学校が誕生して以降のことでした。今では、82校の大学医学部/医科大学が存在し、医学の進歩に貢献するとともに国民保健・地域医療を支えています。本講は、京都府立大学と京都工芸繊維大学の2年次以上の上回生を対象とし、現代の医学部教育について紹介する目的で開講されました。基礎医学、社会医学、そして臨床医学の各医学科講義から抜粋した講義をシリーズ化し、歴史背景や最先端医学上の課題について概説します。もって、医学系以外の学生諸君に医学教育課程への理解を深めていただき、大学間の相互交流に寄与することをその目的としています。 ※2回生以上の工繊大・府大生を対象	「医学」は生命の仕組みの解明や疾病の理解と制御方法を探る「科学」であると同時に、ひとびとが幸せな生活を追求するうえで必ずどこかで関係を持つことになる「実学」でもあります。しかしながら、その実際を正式な教育機関で学ぶ機会はきわめて限られているのが現状です。この授業では、「医学部専門課程授業で取り扱われる重要な臨床課題や最先端医学研究トピックス」を共通テーマとし、じっさいに担当している医学科教員たちがわかりやすく解説します。幅広い専攻分野の学生諸君の聴講を期待します。	○		

《京都学》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
京都の農林業	府	中村 貴子 ほか	後	わが国の農林業の概要とその中における京都の農林業の特徴とについて、リレー方式で概説する。一千年以上もの間、都であった歴史的京都ゆえに、伝統的に蓄積されてきた技術と文化に基づく農林業と、新しい技術と生産方式の下で再編成される現代の農林業との2つの側面を明らかにして、長期的視点でわが国と京都の農林業を見つめ直すための教養を身につける講義である。	7人の教員が担当する授業であり、全体像を理解するためには、復習が必要である。 成績評価は、各教員による小テストと出席状況に基づき行われる。	○		
京都の防災と府民	機	松岡 京美 ほか	後	地震災害、津波災害、風水害、火山災害、雪害など、個人では対処できない被害の脅威にさらされている日本において、防災、減災、生活再建、地域復興などの被災がもたらす問題の解決は公共政策の重要な課題である。これらの防災関連の対応策は、ハードからソフトまでを含む広い領域にわたる。防災はまさに学際的な領域であり、この授業は、災害の歴史、木造文化財の耐震、防災地図情報、災害時の看護、災害対応政策などの多彩な内容で構成される。京都府は、由良川や淀川水系の河川氾濫、花折断層、山田断層など多くの活断層、あるいは福井県原発など、災害が府民にとって身近な問題であり、阪神・淡路大震災や東日本大震災の教訓がどのように生かされるかは重要である。この授業は、学際的な視点から自然災害の脅威とそれへの対応策を知る機会を学生に提供し、学生自らが考える契機となることを目標としている。	東日本大震災の生々しい記憶は私達の心に深く刻み込まれていますし、東南海地震の危険性も度々指摘されており、私達は心のどこかで大災害を意識してきたはずだ。しかし、時間の経過とともにその意識は薄れ、ともすれば、大災害が明日は我が身に降りかかってくる可能性があるということを忘れがちなのではないでしょうか。この講義は、三大学教員をはじめとする色々な分野の専門家が、「防災」をキーワードに、いずれ襲ってくるであろう大災害の被害をいかに防ぎ、また減じることができるかを学び、また、一緒に考えていただこうという趣旨で企画しました。学生時代だけではなく、皆さんの将来へ向けて、是非とも受講していただきたいと思います。	○		◎
京都の自然	府	平山 貴美子 ほか	前	京都府は、本州のほぼ中央に位置し、日本海から内陸にいたる細長い地域です。標高1000mを超えるような山はありませんが、日本海に面する北部地域から丹波高地、そして古くから人との関わりが大きかった京都盆地、山城地域と多様な自然環境が見られます。本講義では、このような京都の自然環境について、リレー方式で、地質学、土壌学、水文学の専門的観点から解説を加えるとともに、生息する野生生物の分布やその地史的・進化的背景について紹介していきます。さらに人との関わりの中で自然環境がどのように変化したのか、あるいは人が自然をどのように利用してきたのかといったことについても紹介していきます。	この講義で取り上げたテーマは、日々、京都の新聞やテレビなどでも関連する話題が扱われます。それらを注意して読んだり見たりするとより深く理解できます。また、皆さんの身近なところで起こっている自然の事象を扱います。この講義を通して、京都の自然とそれを取り巻く問題を身近なこととして捉え、考える機会としてほしいと思います。	○		

《リベラルアーツ・ゼミナール》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
製品の機能から科学を学ぶ (リベラルアーツ・ゼミナールⅦ) (旧リベラルアーツ・ゼミナールⅦ)	機	石田 昭人	前	身近な製品の機能を切り口として、その背景となる物理・化学・生物学的な重要事項を理解し、最先端科学に触れることで、知的好奇心とグループ活動能力を育成する講義である。「硬い」、「光る」、「くっつく」、「伸びる」、「通す」、「分ける」、「吸い込む」といった機能を身近な製品や商品から探し出し、自らの手と頭を駆使して対象とする製品や素材の機能、その背景となる最先端科学について調査する。グループワークによる科学技術情報の収集と議論、発表の技法の修練を通して、受講者のポテンシャル向上はもちろん、三大学の学生が共に高め合う関係を創り上げていきたい。 文系理系学部学科を問わず、知識の獲得に対して強い快感を感じることができ意欲的な学生の受講を期待する。2 回生以上の受講も歓迎する。	メガネや保温マグカップは何で出来ている？と聞かれて「金属」、「プラスチック」しか出て来ないのでは？「ヒートテック」はどうしてあたたかいの？「縫合糸」、「人工靱帯」、「傷口にくっつかないガーゼ」は何でできてる？「光ファイバー」はどうやって光を運ぶ？「集材材」はどうやって作る？「水中コンクリート」ってどうして固まるの？「リチウムイオン電池」の中でリチウムはどうやって電気を起こしている？「m RNA」がなんでワクチンになるの？「DNA アプタマー」って抗体の代わりになる？皆さんは答えられますか？素材の名前や性質、製品機能の原理を知っていれば安心安全安上がりな生活ができますし、最先端の科学技術に触れることができます。こんな面白いことを放っておく手はありません。さあ、一緒に知の世界を探索しましょう。	○		○
意外と知らない植物の世界 (リベラルアーツ・ゼミナールⅧ) (旧意外と知らない植物の世界)	機	松谷 茂 ほか	後	多種多様な植物を、文系と理系の複数の教員がリレー講義を行うことによって文理横断の内容を多角度から展開し、植物に対する認識を新たに形成する。 文系ではイギリスの歴史・文化や日本の文化、とりわけ美術・文学に登場する文様を含めた植物表現について西洋と比較、また、理系では植物や植物園に関する知識、人間生活との関係性から染料や薬草あるいは動物とのかかわりなどについて論考し展開する。 大学に隣接し日本トップクラスの植物を保有する京都府立植物園を教育活動実践の場としてフィールドワークの観察を行い、植物の持つ不思議や謎を追及する中、その生きざまや死にざまについて思索する。 このような学習の過程では、共通の植物を介して教師と学生、あるいは学生同士の interactive な討論が期待できる。例えば植物を歴史・文化的観点から捉えた場合、時代・地域・社会によりその意味付けが変化していくことが理解できる一方、理系では、植物をサイエンスの対象として捉えるなど、文理の視点の違いを相互理解し、異分野の学生同士が交流しながら多角的な見方を獲得することにより、学問向上の発展につなげていくことを目指す。	[松谷] 植物観察の秘訣は、不思議と謎を感じることに。[現場が教科書]、を実感しましょう。 [後藤] 私たちは動物です。植物との関わりを学習し、生物学的多様性を理解しましょう。 [野口] 身近にある植物にまつわる物語を知って、世界への扉をまたひとつ開こう。 [浦川] 1. 衣服を染める天然染料の多くは植物由来です。天然染料について知ろう。 2. 海藻と海草はちがうのか？ [市川] 写真を用いて様々な植物を観察してみましょう。見方のルールを決めて撮影することで普段は気づかない植物の一面が見えてくるかもしれません。 [井戸] 古くから日本では植物を象る美術作品が多く作られてきました。そのような形象の制作背景を探っていきましょう。	○	○	○
レーザーで測る、創る、楽しむ (リベラルアーツ・ゼミナールⅨ)	機	播磨 弘	前	1950 年代の発明以後、レーザーは著しい進歩を遂げ、社会生活に不可欠な基盤技術として確立した。ここではその歴史や動作原理を復習したあと、産業・日常生活の色々な分野でいまどのように活用されているか見てみよう、またその未来を予想してみよう。 ゼミ形式で講義を進める。受講生が自ら調査した結果をあわせて皆で対話しながら以下のようなテーマで楽しく学びたい：(1) 作り方…レーザーはどんな光？ その歴史、原理と種類。(2) 情報を記録する、送る…DVD、スキャナ、光通信。(3) レーザで芸術…プロジェクタ、ディスプレイ。(4) レーザで工作…切削加工、3D プリンタ。(5) レーザで測る…顕微鏡、分光分析、3D 観測、天体・地球観測。(6) レーザと医療…手術と美容、医療。(7) 究極応用？…核融合、レーザー冷却、レーザー兵器。(8) レーザにかける夢。	レーザーは発明以来、比較的浅い歴史にもかかわらず我々の日常生活の幅広い分野に深く入りこんできている重要な基盤技術です。この授業では毎回テーマを具体的に絞って、文系・理系を問わずどの分野の受講生さんでも、自ら調査して討論に主体的に参加できるような分かりやすい双方向の授業をめざします。	○		○